1. ①High among the causes usually advanced for the decline of reading is the television set found in every home. ②Television is no doubt blamed for more of society's ills than it has actually brought about, yet it is surely unequaled as our era's time-killer.
（お茶の水女子大）

《語句》 advance:①進める、進む ②促す、助長する
③(意見･計画･理論などを)提出する、提案[提言]する
decline:低下、衰退、減少
no doubt:疑いなく、確かに
=certainly
=surely
blame A for B: Bの理由でAを非難する
ill:悪
bring about A: Aをもたらす、引き起こす
unequaled:匹敵するものがない、比類ない
era:時代
time-killer:時間をつぶすもの

【解答＆解説】

①
この英文の構造が読み取れましたか。まず文頭の High は「(程度が)高い、際立っている」という意味の形容詞。形容詞はＳ(主語)にはなれません。
LESSON BOOK REVIEW Rule-１ 3. を参照せよ。

among the causes usually advanced for the decline of reading は、以下の図のように分詞句によって修飾されている前置詞句です。これもＳ(主語)にはなれません。

among the causes usually advanced for the decline of reading
(前) (名) p.p.

実はこの英文は、その後の is がＶ(動詞)、更にその後の(裸の)名詞の the television set がＳ(主語)、そして文頭の High がＣ(補語)という、ＣＶＳとなる

第二文型の倒置構文だったのです。

LESSON BOOK REVIEW Rule-40 を参照せよ。

High among the causes usually advanced for the decline of reading
C ↑ ～の中で ↑ 原因 たいてい p.p. 提言される 読書の衰退

is the television set found in every home.
Ⓥ Ⓢ ↑ p.p.

倒置を見抜けるようになるためには、

①文型判断の基本ルールをマスターする
②倒置のルールをマスターする

ことが大切です。本問の場合、文型判断の基本ルールがマスターできていさえすれば、ＣＶＳという倒置があることを知らなくても、上のように構造は見抜くことができました。ただ、倒置のルールを知っておくこともやはり大切。これについては LESSON BOOK REVIEW 5.倒置・語順変化(文の要素の移動) をしっかり読み込んでおいてください。

①はそうすると「読書が衰退したことに対して提言[提示]される原因の中で際立っているのが、どこの家庭にもあるテレビである」と訳せます。

②

no doubt は「確かに」という意味の副詞で、文の主要素にはなりませんから注意してください。

同じように「no+名詞」で副詞として用いるものに no wonder がある。No wonder S+V～ で「～なのも無理はない、当然だ」という意味になる。

(ex) No wonder the woman tried to kill herself.
その女性が自殺しようとしたのもむりはない

than it has actually brought about は、直訳は「それ[テレビ]が実際にもたらした以上に」。そうすると Television ～ about までは、「疑いなくテレビは、実際にもたらした以上に社会悪の原因として非難されている」、あるいは「疑いなく、テレビは実際以上に社会悪をもたらした原因として非難されている」となります。

その後の yet ですが、文頭、節頭の yet は(接続詞として)「しかし、にもかかわらず」という意味になります。注意しましょう。

要するに but と同じ、と考えよ。

as についてですが、ここでは直後に名詞(our era's time-killer)のみを取っています。「as+名詞」となる as は前置詞で、基本的に「～として(は・の)」と訳します。

例外として、「as + A(人生の(過去の)成長段階)」となる場合は、「Aの頃、Aの時(になって)」と訳すことがある。

(ex) As a child, he was happy. 子供の頃、彼は幸せだった

そうすると yet ～ time-killer までは「しかしながら、我々の時代の時間つぶしとしてテレビが比類ないものであることは確かである」となります。

【全訳】

「読書が衰退したことに対して提言[提示]される原因の中で際立っているのが、どこの家庭にもあるテレビである。疑いなくテレビは、実際にもたらした以上に社会悪の原因として非難されている。しかしながら、我々の時代の時間つぶしとしてテレビが比類ないものであることは確かである」

2. Anything that can provide us with pleasure in the simple contemplation of its external characteristics without any direct and definite exercise of the intelligence, I call in some way beautiful.

《語句》contemplation:じっと見つめること、凝視
external:外的な⇔internal:内的な
characteristics:特性、特徴
definite:明確な
exercise:(精神力・体力を)働かせること、行使
intelligence:知性

【解答＆解説】

問題はこの英文の全体構造です。わかりますか?
これを読み解くためには、Ｖ(動詞)である call の語法がわかっていなければなりません。call には call ＯＣ で「ＯをＣと呼ぶ」という語法があります(〇〇ページを参照せよ)。

(ex) We called the puppy Chiro. 私達はその子犬をチロと呼んだ[名づけた]

本問はその call ＯＣ の本来の語順が変化した英文なのです。つまりＯにあたる anything が文頭に飛び出して「ＯＳＶＣ」の構造になっているのです。Ｓ(主語)は I、もちろんＶ(動詞)は call、そしてＣ(補語)は beautiful です。「that 以下のいかなるものをも、私は美しいと呼ぶ」が骨組みなのですね。
LESSON BOOK REVIEW Rule-41 を参照せよ。

少々複雑になりますが、全体の構造分析図を示してみましょう。

Anything
O↑

that can provide us with pleasure
関・代　V↑　O　喜び

in the simple contemplation of its external characteristics
ただ単に見つめること　外的な特性

without any direct and definite execise of the intelligence
～なしに　直接的な　明確な　行使　知性

I call (in some way) beautiful.
Ⓢ Ⓥ↑　意味　C

さて次に that節です。provide A with B の語法については、たとえそれを知らなくても、LESSON BOOK REVIEW Rule-26 1. から「AにBを与える」型ではと類推できて欲しかったところです。この部分は、「私達に喜びを与えてくれる」となります。
in ～ intelligence までは、上の図を見ても分かるように全体で provide を修飾しています(副詞句)が、詳しく分析してみましょう。まず

in the simple contemplation of its external characteristics

ですが、この部分は A of B の構造です。この部分を(of を目的格とみなして)

⇒ contemplate its external characteristics simply
V↑　O　(副)

と、「他動詞+目的語」の形に書き直してみるわけです。
そうすると「その外的な特性をただじっと見つめるだけで」とうまく意訳できますね。
次に

without any direct and definite exercise of the intelligence

ですが、ここも同じように without の後ろが A of B の構造です。実はこの部分も(of は目的格とみなして)

⇒ exercise　the intelligence　directly and definitely
V↑　　O　　(副)

と読み換えます。すると「直接的にそして明確に知性を使う[働かせる]」。これにwithout(～なしに)を加えて「直接的にそして明確に知性を使う[働かせる]ことなしに」とまとめます。
最後に in some way ですが、まず in とセットで用いる way には、「方法」という意味以外に「点」「意味」という意味があることを覚えておきましょう。

(ex) in every way どの点からみても
=all along the way
=in all ways
The position which I was offered was very attractive in some ways.
私が提供された職は、いくつかの点で大変魅力的なものだった

本問の way は、「ある意味において」と訳したらいいでしょう。この部分は(前ページの図を見ても分かるように) call を修飾しています(副詞句)。

さて最後に全体をまとめてみましょう。こうなります。

「知性を全く直接的かつ明確に働かせることなく、その外的な特性をただ単に見つめるだけで我々に喜びを与えてくれるようないかなるものをも、私はある意味において(それを)美しい(ものである)と呼びます」

《課外授業13》

the+抽象名詞+with which S+V～のうまい訳し方。

こんな英文をサッと訳せますか?

We were surprised at the ease with which she climbed the mountain.

問題は the ease with which の訳出。さてどうすれば…。
実は

「the+抽象名詞+with which S+V～」は「how+副詞+S+V～」で書き換えられる

のです。つまりこの部分は

「どれほど[なんとも]…に、Sは～する」

と訳せばいいのです。したがって the ease with which S+V～ も how easily S+V～、つまり「なんとも[どれほど]カンタンにSは～する」と訳してしまえばいいわけです。そうすると全体は「彼女がなんともやすやすと登頂に成功したことに我々は驚いた」となります。他にいくつか例を挙げてみましょう。

Violence is related to the ease with which guns may be obtained.

上の英文の the ease with which guns may be obtained も

→ how easily guns may be obtained

と読み換えてしまえばいい。そうすると全体は「暴力は、銃がどれほど容易に入手できるかということと関連している」となります。

Everybody was astonished at the rapidity with which he solved the problem.

上の英文の the rapidity 以下も

→ how rapidly he solved the problem

と読み換えてしまえばいい。そうすると全体は「彼がなんとも素早くその問題を解いたことに、みんな舌を巻いた[驚いた]」となります。

3. ①With language, we can communicate with others and can put our talk into writing for others to read. ②By these means we can make known to others all of our thoughts, ideas, feelings, and experiences.

《語句》 writing:文書
means:手段
experience:経験

【解答＆解説】

①
まず出だしの With ですが、文中の with の可能性は70～80%は

(1)「～と一緒に」
(2)「having～(～を持っている)」で言い換えられる with
(3)「～でもって」「～のおかげで」 【手段・原因の with】

のいずれかにあてはまります。本問の with は「手段・原因」とみて「～を用いて、～のおかげで、」でいいでしょう。
次に put A into B という構造ですが、これは「動詞+A into B」型。このタイプは

(1)「ＡをＢに変える」
(2)「ＡをＢの中に入れる」

のたいがいどちらか(LESSON BOOK REVIEW Rule-26 6.を参照せよ)。ここは((1)タイプと判断し)「自分 の言葉を文書に変える → 自分の言葉を文書にする」と訳をまとめればいいでしょう。

for other men to read は「他の人が読めるように」と言う意味で、 put を修飾する副詞句です。
others と to read の間には「主語と述語の関係」が成立している。LESSON BOOK REVIEW Rule-35 を参照せよ。また不定詞の訳し方については LESSON BOOK REVIEW Rule-28 を参照せよ。

そうすると①の和訳は、「言語のおかげで、私達は他の人と意思の疎通ができるし、

他の人が読めるように自分の話を文書にすることもできる」となります。

②
出だしの By these means は、「これらの手段によって」。
問題は make known to～。普通「make+p.p.～」という構造は、make の語法としてありえません。そこで次に「語順変化(文の要素の移動)」の可能性について考えてみるのです。make には「make+C+p.p.～:Oを～してもらう」という語法がありますね。Oになれる語句が、文中のどこかにないか探してみるのです。Oになれるのはもちろん「名詞(の仲間)」。すると、all of～experiences という「名詞」のかたまりが英文末尾にみつかります。実はこれがOだったのです。「英語は長くなると後回しにする」という鉄則があります。本問もその鉄則にしたがって

make + O + $\underbrace{\text{p.p.～}}_{C}$ ⇒ make + $\underbrace{\text{p.p.～}}_{C}$ + O

と、語順変化が起きたのです。

we can make known to others
Ⓢ Ⓥ C

$\underbrace{\text{all of our thoughts, ideas, feelings, and experiences}}_{O}$.

LESSON BOOK REVIEW Rule-46 を参照せよ。

これが分かれば「自分の思想、観念、感情や経験のすべてを他(の)人にわかってもらうことができる」とうまく和訳ができあがります。
②全体はそうするとこんな訳になります。

「これらの手段によって、人間は自分の思想、観念、感情や経験のすべてを他(の)人にわかってもらうことができる」

【全訳】

「言語のおかげで、私達は他の人と意思の疎通ができるし、他の人が読めるように自分の話を文書にすることもできる。これらの手段によって、私達は自分の思想、観念、感情や経験のすべてを他(の)人にわかってもらうことができる」

4. Things might have lasted until my working life had ended had not my employer, the company president, died and his son, a young man with modern ideas and determination to expand his business, taken over the company.

《語句》things:状況、事態
last:続く
working life:職業生活[人生]
company president:会社の社長
employer:雇い主　⇔employee:従業員
determination to do[形]～:～しようという決意
expand:拡張する、拡大する
take over A:Aを(引き)継ぐ、継承する

【解答＆解説】

なんと４行にもわたっていますが、これが１文で書かれています。
まず文の骨組みですが主節のＳ(主語)は Things、Ｖ(動詞)は might have lasted でいいでしょう。そのあとに until Ｓ+Ｖ という、接続詞の until が導く節が続いています。

Things (Ⓢ状況) might have lasted (Ⓥ) ↑続く [until (接) my working life (S 職業人生) had ended (V 終わる)]

「事態、状況」という意味の things、「続く」という動詞の last は受験では頻出。

そうするとこの部分は「私の職業人生が終わるまでは、状況は続いていたかもしれない」となります。
問題はそのあとです。この部分の構造はつかめたでしょうか。いきなり had not で始まってしまっていてよくわからなかったという人も多かったかもしれません。
実は LESSON BOOK REVIEW　Rule-43 にこんな説明が載っています。

(1)仮定法のif節(条件節)の if が省略されると、その条件節は「疑問文と同じ語順」になる。

⑵その見きわめのポイントは以下の２つ。

①主節に「助動詞の過去形」あるいは「助動詞の過去形+have+p.p.～」がある。
②?(クエスチョン・マーク)が文末にないのに、疑問文の語順になっている節が文中にある。

「～だろう」「～の可能性がある」という推量や可能性の助動詞(would/ might/ could/should)は例外。
またIf節にshouldが入る仮定法(もし万一～なら)の場合、主節に、「助動詞の過去形」がこないこともあるので注意。

(ex) Should anyone call me, please take a message.
=If anyone should call me, please take a message.
もし万一誰かから電話があったら、伝言をきいておいてください

この２つのポイントがあてはまる英文に出くわしたら、(仮定法の)ifの省略を疑ってみよう。

今回の問題の場合、主節に might have lasted と、「助動詞の過去形+have+p.p.～」があり、文末に?もないのに、文中盤に had not S died[taken over]～ という疑問文の語順が見つかります。そうです。これは仮定法の if の省略なのです。
つまり、had not ～ company. までが本来の if節に相当します。if を補って元の形に戻してみると、このようになります。

if { my employer (S) ,～, had not died (V)
and
his son (S) ,～, had not take over the company (V) }

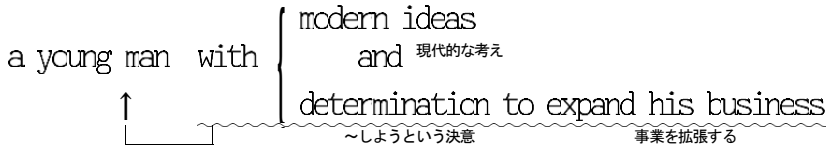
カンマではさまれた挿入部分を省いて訳すとこうなります。

「もし私の雇い主が死なずに、そしてもし彼[雇い主]の息子がその会社を継いでいなかったならば」

次にカンマではさまれた挿入部分の役割ですが、LESSON BOOK REVIEW Rule-８ にこんな説明があります。

Ⓢと Ⓥの間でカンマやダッシュによって挿入されている名詞のほとんどは、直前のⓈ(の性質・身分・状況・行動等)を説明している(つまりⓈと内容的にイコール関係)と思ってまず間違いない

そうです。２個所の挿入語句は、それぞれ直前の主語を(同格的に)説明する働きをしているのです。つまり my employer と the company president はイコール関係(同格)で、「私の雇い主、即ちその会社の社長」と訳せば良いでしょう。
his son, a young man with modern ideas and determination to expand his business の his son と a young man も同じようにイコール関係(同格)です。with は having ～で言い換えられる「～を持っている」という with で、modern ideas と determination は共に with の目的語になっています。



この部分は、「現代的な考え方と、事業を拡張しようという決意を持っている[持った]若者」となります。
さてこれで問題文全体も理解できました。訳をまとめてみましょう。

「もし私の雇い主、即ちその会社の社長が死なずに、そしてもし彼[雇い主]の息子、即ち現代的な考え方と、事業を拡張しようという決意を持った若者がその会社を継いでいなかったならば、私の職業人生が終わるまで状況は続いていた[変わらなかった]かもしれない」

5. The advance in communication technology and the considerable improvements which have taken place over the past decades in the means of transportation have reduced to comparative insignificance the time element in communication.

《語句》advance:発達、進歩
communication technology:通信技術
considerable:著しい
improvement:改良、向上、進歩
take place:起こる、生じる
the means of transportation:輸送手段
comparative:比較的(な)
insignificance:取るに足らないもの
the time element:時間という要素
reduce:減らす

【解答＆解説】

文の骨組み(主要素)になれるのは「名詞(とその仲間)」、逆に文の骨組み(主要素)になれないものの中に「前置詞+名詞」「関係詞節」等があると、これまで繰り返し説明したことをもう一度思い出してください。
そこで「前置詞+名詞」と「関係詞節」を(　　)でくくり、骨組み(主要素)を浮かび上がらせてみましょう。

The advance (in communication technology)
Ⓢ1

and

the considerable improvements (which have taken place over the past decades in the means of transportation)
Ⓢ2

have reduced (to comparative insignificance) the time element (in communication).
Ⓥ　　O

そうすると、上の図のようにＳＶＯ構文が浮かび上がってきます。in ～ technology

と which ～ transportation は、それぞれ直前の主語(Ⓢ₁ Ⓢ₂)を修飾しています(形容詞句・節)。

The advance in communication technology
Ⓢ₁ 発達 通信技術

and

the considerable improvements [which have taken place over the past decades]
Ⓢ₂ 著しい 進歩 V 起きた 過去数十年に渡って

in the means of transportation
輸送手段における

have reduced (to comparative insignificance) the time element
Ⓥ 減らした 比較的取るに足らないもの O 時間という要素

in communication.
コミュニケーションにおける

そうすると have reduced までの訳は「通信技術の発達と過去数十年に渡って起きた輸送手段における著しい進歩は、～を減らした」となります。
問題は reduce 以下の構造です。これを読み解くには、reduce 以下が、

to B(名) A(名)

という構造になっている点に気づけたかどうかが鍵になります。

…have reduced to comparative insignificance the time element
Ⓥ (前) B(名) A(名) in communication

これは、元々 reduce A to B だったのではないかと予測できなければなりません。
reduce には「reduce A to B:AをBに減らす[減じる]」という語法がある。

A(the ～ communication)にあたる部分が長すぎて文章末尾に回されてしまったのです。これを見極める方法が LESSON BOOK REVIEW Rule-47 に載っていました。それは

「V+(前)+A(名)」という構造の後に、S・O・Cといった特定の役割を持たない「名詞」を発見したら、「S+V+M+O」型の語順変化ではないかと疑ってかかってみる

というものでした。本問でも have reduced to comparative insignificance という

「V+(前)+A(名)」の後に、the time element という(役割を持たない)名詞が続いている構造になっているところから、reduce to B A の語順変化に気付かなければなりませんでした。
最後に reduce A to B について。この語法・意味がわからなくても和訳を作り上げる方法は大丈夫ですね「動詞 + A to B」という形に着目するんでした。
LESSON BOOK REVIEW Rule-26 7. を参照せよ。

ここは「AをBに変える」型 と見て、reduce 以下をこんなふうにまとめればいいわけです。

「コミュニケーションにおける時間という要素を比較的意味のないものに変えた」

前半部を含めた全訳は以下の通りです。

「通信技術の発達と過去数十年間に渡って起きた輸送手段における著しい進歩は、コミュニケーションにおける時間という要素を比較的意味のないものに変えた」。

補足事項として、reduce A to B となる場合のAとBは、以下のような関係となることを覚えておきましょう。

A…(量・価値・程度の点で)多・大・高
B…(　　〃　　)少・小・低

そうすると本問の場合、

the time element in communication ←(価値的に)高い

comparative insignificance ←(価値的に)低い

という関係が読み取れますね。そうすれば insignificance の意味がわからなくても「大したことがないもの」程度の訳をつけられるのです。

《課外授業14》

受動態の訳出の仕方について。

本編でも少し話しましたが、英語でいくら受動態で書かれていても、日本語に訳す際は、できるだけ能動的に訳した方が良いということを和訳問題では覚えておくといいでしょう。以下の英文を見てください。

(ex) All invitation to dinner should be answered immediately.

直訳をすれば 「夕食への招待はすぐに返事が出されるべきである」となりますが、それよりも能動的に「夕食への招待にはすぐに返事を出すべきである」と訳した方がこなれた良い訳になりますね。
もう一つ例を挙げてみましょう。

(ex) No dinner engagement should ever be broken without serious reason.

直訳は「もし相当な理由がないのなら、夕食の約束は決して破られるべきではない」ですが、ここも能動的に「もし相当な理由がないのなら、決して夕食の約束を破るべきではない」と訳した方が良いですね。

場合によって「英語で能動態で書いてあっても、和訳の際にはあえて受け身的に訳した方が良い」こともないわけではない。がこちらは数的には多くない。

6. ①Obviously, there are civilizations respected as such by almost all people.
②Those of Indus or ancient Mesopotamia are involved in the list of such civilizations and so are those of China, and of classical Greece and Rome and of Egypt, to name only some clear examples.

《語句》obviously:言うまでもなく、確かに
respect:敬う、敬意を表する
as such:そういうものとして
ancient:古代の
=classical

【解答＆解説】

①
ここは単語以外は問題ないでしょう。文頭の Obviously は、主節とはカンマで区切られ、文全体を修飾しています。このような文修飾の副詞は、形容詞化して文全体を仮主語構文にしてしまうのもうまい和訳を作る方法でした。
LESSON BOOK REVIEW P50 Rule—12 を参照せよ。
本問も

⇒ It is obvious that there are civilizations～.

と頭の中で文を書き直して考えてみてもよかったのです。
骨組みはいわゆる there is 構文。are がV(動詞)、civilizations がS(主語)で、respected ～ people までの分詞句が civilizations を修飾しています(形容詞句)。

there are civilizations
Ⓥ Ⓢ ↑
respected as such by almost all people.
p.p.

全体の訳はこんなふうになります。

「ほとんど全ての人々によって、そういうものとして尊敬の対象となっている文明があることは確かだ」

②

まず and の手前まで。ここは Those がＳ(主語) 、 are involved がＶ(動詞)です。ここも単語以外は大したことはありませんネ。それから代名詞の Those の働きは、基本的に２つでした。

(1)「the people」の代用
(2)「the+既出の複数名詞」の代用

本問の those は 「the+既出の複数名詞」の代用です。ここでは the civilizations を指しています。

Those[=the civilizations] of Indus or ancient Mesopotamia are involved
Ⓢ ↑ インダス 古代メソポタミア Ⓥ↑ 含まれる
in the list of such civilizations

そうするとこんな訳になります。

「インダスや古代メソポタミアの文明は、そのような文明のリスト[一覧]の中に含まれる」

次に and ～ Rome までですが、ここは are がＶ(動詞)、those がＳ(主語) になっています。この those も the civilizations の繰り返しを避ける代名詞です。全体は「So Ｖ+Ｓ：Ｓもまた～だ」の構文でできています。

LESSON BOOK REVIEW Rule-42 を参照せよ。

and so are those
Ⓥ Ⓢ
- of China
- and
- of classical
  - Greece
  - and
  - Rome
- and
- of Egypt

そうするとこの部分の訳は「中国や古代ギリシア・ローマ、そしてエジプトの文明もまたそうである」となります。
問題は to name 以下ですね。ここが難しい。
to name を用いた表現に以下のようなものがあります。

to name but[only] a few「ほんの少数の名前(例)をあげると(れば)」

name は動詞で「①名前を挙げる ②名前をつける」という意味がある。but は副詞で「ほんの～に過ぎない」。

本問は、この name を用いた表現の応用形だったのです(上記の表現にしても few の後ろに names[instances, examples]が省略されているだけ)。
つまり to ～ examples は「いくつかのわかりやすい例をあげるだけでも」くらいでいいのです。
そうすると②の全体はこんな訳になります。

「いくつかのわかりやすい名前[例]をあげるだけでも、インダスや古代メソポタミアの文明は、そのような文明のリスト[一覧]の中に含まれ、中国や古代ギリシア・ローマ、そしてエジプトの文明もまたそうなのである」

【全訳】

「ほとんど全ての人々によって、そういうものとして尊敬の対象となっている文明があることは確かだ。いくつかのわかりやすい例をあげるだけでも、インダスや古代メソポタミアの文明は、そのような文明のリスト[一覧]の中に含まれ、中国や古代ギリシア・ローマ、そしてエジプトの文明もまたそうなのである」

7. ①Venus is a planet which appears unable to support higher organisms. ②There may be a chance for primitive marine organisms. ③But whether more complex life-forms will evolve remains to be seen.

《語句》 Venus:金星
higher organism:高等生物
primitive marine organism:原始的な海洋生物
complex:複雑な
life-form:生命体
evolve:進化する

【解答＆解説】

①
まず全体構造ですが、Ｓ(主語)は Venus、Ｖ(動詞)は is、a planet がＣの第二文型(ＳＶＣ)です。which節は a planet を先行詞に取り、これを修飾しています。which節内の appears は、直後にＣになる形容詞(unable)をとっているので、「現れる」ではなく「Ｃのように見える」という意味。つまり seem とほぼ同じ意味です。

appear は、ＳＶ、つまり第一文型では「現れる、姿を現す」という意味。本問のように、後ろに「形容詞」やまた「名詞」「不定詞句」等をＣ(補語)としてとる、つまりＳＶＣで使われる場合には「Ｃのように見える」という意味になる。

support はこの場合「～を養う」という意味で support higher organisms で、「高等生物を養う」が直訳となります。が、which節全体を「高等生物が生存できないような[ように見える]」と意訳した方がいいでしょう。

support は「養う」「支える」「応援(支持)する」「裏付ける、立証する」など様々な意味を持つ多義語だが、「下から支える」が『核』のイメージ。これですべての意味が１つにつながる。

Venus is a planet [which appears unable to support higher organisms].
Ⓢ Ⓥ C↑ V C 〈O〉

さてそうすると①全体はこんなふうになります。

「金星は、高等生物が生存できないように見える惑星である」

②
Ｓ(主語)は a chance、Ｖ(動詞)は may be、for～organismsは chance を修飾しています(形容詞句)。訳は「原始的な海洋生物がいる可能性はあるかもしれない」となります。

③
But の直後に whether節があります。このような節頭や文頭の whether節の見極め方については LESSON BOOK REVIEW Rule-59 にこうあります。

(1)Whether節の直後に「Ⓥ」があれば、そのWhether節をⓈと判断し「～かどうかと訳す。

(2)Whether節の直後に「Ⓢ+Ⓥ(主節)」があれば、そのWhether節は副詞節。「～あろうとなかろうと」と訳す。

本問は(1)のパターンでした。つまりWhether節(Whether～evolve)がＳ(主語)、remains がＶ(動詞)、to be seen がＣ(補語)のＳＶＣです。
whether節が evolve で終わっていると判断できるのは、もうおなじみの「その節の初めから動詞の数を数えていき、２つ目の動詞の手前がその節の終わりであるとみなす」というルールによるものです。whetherから動詞の数を数えていくと、２つ目は remains。この手前で whether節は終わっていると分かるわけです。

whether more complex life-forms will evolve	remains	to be seen
S　V	Ⓥ	C
Ⓢ		

それから remain to be+p.p.～ で「(物事が)これから～されねばならない、まだ～されないでいる」という意味になります。
要するに「remain C:(依然として)Cのままである」という remain の語法のCに「(これから)～すべき」という不定詞句が入ったと考えればいい(「依然としてこれから～すべきままである → まだ～されないでいる」となる)。

seen はもちろん see の過去分詞形で、この see は「分かる、知る」という意味で使われています。
そうすると全体はこうなります。

「より複雑な生命体が進化するかどうかは、これからわかるだろうことである[現状ではまだわかっていない]」

【全訳】

「金星は高等生物が生存できないように見える惑星である。原始的な海洋生物がいる可能性はあるかもしれない。しかしより複雑な生命体が進化するかどうかは、これからわかるだろうことである[現状ではまだわかっていない]」

8. ① One of the gravest dangers in your human relationship is egotism, for there is nothing that will separate people more, and nothing so easy to slide into. ② The most selfish people are generally neglectful of this fact. ③ Yet egotism can be overcome very easily. ④ All you have to do is foster the ability to put yourself in the other fellow's place.

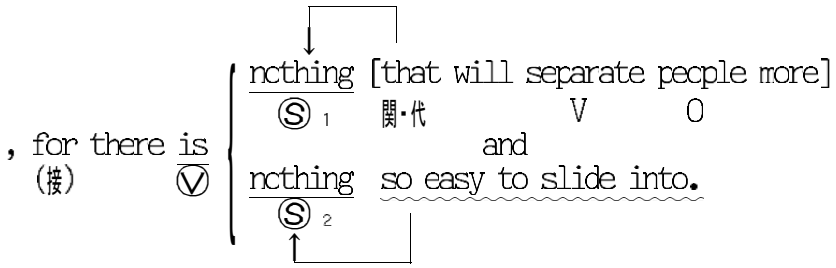
《語句》 human relationship:人間関係
grave:重大な、重要な
egotism:自己中心癖、自己本位
separate:引き離す、仲違いさせる
slide into A:(いつの間にか)Aに陥る
selfish:自己中心的な
be neglectful of A: Aに無関心な、無頓着な
overcome:征服する、克服する
foster:育む、伸ばす
put yourself A's place:自分をAの立場に置く、Aの立場になって考える
the other fellow:相手

【解答＆解説】

①
まず文頭から egctism まで。骨組みは「One ＝S」「is ＝V」「egctism ＝C」の第二文型(ＳＶＣ)で、それ以外の語句の修飾・被修飾関係もさほど難しくはなかったはずです。

One of the gravest dangers in your human relaticnship is egctism
Ⓢ Ⓥ C

この部分の訳は「私達の人間関係における最も大きな危険の一つは、自己中心的になることです」となります。
次に ，for ～ into まで。まず全体構造ですが、以下のように分析できます。



is がⓋで、２つの nothing が共通してⓈになっており、that～more、so～into がそれぞれ直前のⓈ(nothing)を修飾しています。節頭の ，for は後ろにＳ+Ｖを取っており、「というのは～だからだ」という意味の接続詞です。
問題は和訳の仕方です。LESSON BOOK REVIEW Rule-54 2.に、こんな説明があります。

否定の原級比較や比較級の表現で、「as～」「than～」が全て省略されている場合がある。

⑴その英文の時制が現在完了なら「今ほど」、過去完了(had+p.p.)なら「その時ど」を補って訳すといい。

⑵それ以外の時制ならば「これほど」を補って訳すといい。

ただし⑵の場合、「これほど」の「これ」が具体的に何を指すのかは文脈で自分で判断する。

ここは上記のルールが当てはまりそうです。完了形ではないので「これほど」を補って訳してみましょう(「これ」は「自己中心的になること」を指していると見る)。そうするとこんなふうに訳せるはずです。

「というのは、これほど人々を引き離してしまうものはなく、そしてまたこれほど私達が 陥りやすいものはないからです」

slide into を知らなかった場合、LESSON BOOK REVIEW 65ページ 2.② の類推法を使えばいいでしょう。ここは「～の中に入る」型と判断すれば、なんとか和訳を作ることができたはずです。

②
この英文、直訳すると「最も自己中心的な人々は、たいていの場合この事実に無頓着なのです」となりますが、いま一つ不自然。実は LESSON BOOK REVIEW Rulw-51 に、うまく訳せない時に even を補ってあげるといい構文として最上級があり、これは受験では頻出とあります。本問も

Even the most selfish people are generally neglectful of this fact.

つまり「最も自己中心的な人々でさえ、たいていの場合この事実に無頓着なのです」と訳すとよかったのです。

③

文(節)頭に現れた yet は逆接の論理マーカー。「にもかかわらず、しかしながら」と訳します。

「論理マーカー」についての知識は、正確にしてスピーディーな読解には不可欠。必ずホームページの「頻出 論理マーカーのまとめ」を読み込んでおくこと。

それ以外は、語句さえわかればここは解説の必要はないでしょう。訳を載せておきます。

「しかしながら、自己中心的になってしまうのを克服するのはたやすいことです」

④

この英文については、以下の構文を知っていたかどうかがカギになります。

All Ⓢ have to do is (to) do[原形]～「Ⓢは～しさえすればいい」

あとは the ability to do[原形]～ で「～することができる能力」と訳すのですが、それは大丈夫だったでしょう。

「英文読解スマートリーティング LESSON BOOK」を持っている人は、205ページを参照。

put A in B については LESSON BOOK REVIEW Rule-26 6. が役に立ったはずです。これは「ＡをＢの中に入れる」型です。「自分自身を相手の立場の中に入れる → 相手の立場に立つ[立場に身を置く]」と類推できます。
ではこの部分の訳です。

「ただ相手の立場に立って考えることができる能力を育みさえすればいいのです」

最後にあと一つだけ。④の英文で「動詞の原形」を用いた構文が現れました。動詞の原形(「原形不定詞」とも言う)は、それをＶ(動詞)と読み間違えたりしやすく、頻出の表現については、きちんとおさえておく必要があります。そんな動詞の原形を用いた重要表現をまとめておきましょう。

(1)「S+V+O+do[原形]～」型。

数ある動詞の中で「S+V+O+do[原形]～」となるのは以下の５パターンしかありません。それだけに超頻出です。しっかりおさえましょう。

①make+O+do[原形]～　　「Oに(強制的に)～させる」
(ex) My mother made me **study** hard. 母は私に猛勉強をさせた

②let+O+do[原形]～　　「Oに(許可して)～させる(てやる・おく)」
「Oが～するのを許す」
(ex) My parents finally let me **travel** abroad alone.
ついに両親は私が一人で海外旅行をするのを許してくれた

③have+O+do[原形]～　　「Oに～させる(してもらう)」
(ex) I had my husband **post** the letter for me.
私は自分の代わりに夫にその手紙を投函してもらった

④知覚動詞+O+do[原形]～　　「Oが～するのを見る(聞く・感じるなど)」
(ex) I saw him **go** into the store. 私は彼がその店に入るのを見た

⑤help+O+(to) do[原形]～　　「O(人)が～するのを手伝う」
「O(人)が～するのに一役買う」
(ex) Help me (to) **find** my umbrella. 傘を捜すのを手伝ってくれ

(2)その他型(特に①～⑥は文法・作文問題で頻出)。

①had better do[原形]～　　「～した方が良い」
(ex) You had better **take** an umbrella with you.
傘を持っていった方がいい

㊟had best do[原形]～となることもあるが、これは had better の強調形。

②do nothing but do[原形]～　　「～ばかりしている」
(ex) The baby did nothing but **cry**. その赤ん坊は泣いてばかりいた

㊟この but は「～以外(に)」という意味。

③would rather do[原形]～ (than do[原形]…)　　「(…するより)むしろ～したい」
=had rather do[原形]～
(ex) I would rather **stay** here. むしろここに残っていたい
I would rather **be** killed than live without you.

君がいない中で生きるより殺されたほうがましだ

④help (to) do[原形]～　　「～するのを手伝う」
　　「～するのに一役買う」

(ex) I helped (to) **paint** the house. 家のペンキ塗りを手伝った

⑤All S have to do is (to) do[原形]～　「Sは～しさえすれば良い」
=S have only to do[原形]～

(ex) All you have to do is (to) **study** hard.
一生懸命勉強しさえすればいい
=You have only to study hard.

⑥All S can do is (to) do[原形]～　　「Sができるのは～することだけだ」
　　「Sは～する(より)他ない」

(ex) All we could do was (to) **wait** for him.
私たちは彼を待つより他なかった

⑦make do with A　　「Aで間に合わせる、済ます」

(ex) We have to make **do** with what's available.
手に入るもので何とかしなければなりません

⑧let go (of) A　　「Aから手を放す」

(ex) Let **go** (of) my shoulder, you're hurting me.
肩から手を離せよ。 痛いじゃないか

⑨let drop A　　「Aをうっかり漏らす、さりげなく言う」
=let fall A

【全訳】

「私達の人間関係における最も大きな危険の一つは、自己中心的になることです。というのは、これほど人々を引き離してしまうものはなく、そしてまたこれほど私達が陥りやすいものはないからです。最も自己中心的な人々でさえ、たいていの場合この事実に無頓着です。しかしながら、自己中心てきになってしまうことを克服するのはたやすいことです。ただ相手の立場に立って考えることができる能力を育みさえすればいいのです」

9. ①The goal of a nation and politics is to remove the violence from the society that is the price of anarchy by substituting for it the peace and security of which the price is law and order. ②Success in accomplishing this goal is the standard of judgment by which the value of a political system has to be judged.

《語句》nation:国家
politics:政治
remove A from B: BからAを取り除く
price:代価、代償
violence:暴力
anarchy:無政府状態
substitute A for B: BをAで置き換える
BのかわりにAを用いる
security:安全
law:法(律)
order:秩序
accomplish:なし遂げる、達成する
standard:基準
judgment:判断、評価
value:価値

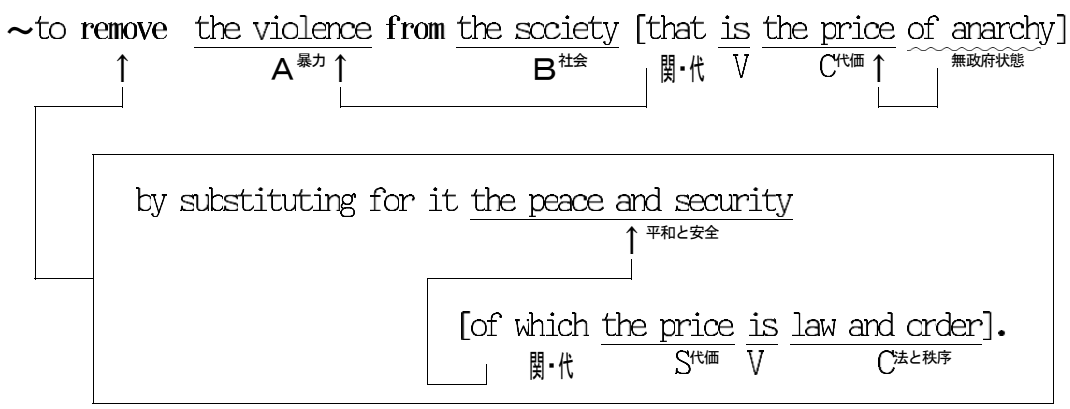
【解答＆解説】

①
まず The goal (of a nation and politics) というＳ(主語)の後ろに is to remove という「be動詞+to do[原]～」の構造が見つかります。このような構造の場合、

(1) be to 構文
(2)ＳＶＣ構文

の２つの可能性があるんでした。
LESSON BOOK REVIEW Rule-33 を参照せよ。

その見極め法は、「be動詞をはさんで前後がイコールで結べればＳＶＣ構文で、イコールで結べなければ be to構文とみなす」んでしたね。本問は「国家と政治の目標 ＝ 社会から暴力を取り除くこと」と、be動詞の前後が(内容的に)イコールで結べるので、これは単なるＳＶＣ構文だとみなしていいわけです。
問題はその後の語句(特に that is ～ order)がどこにかかっているかでした。以下が構造分析図となります。



このように that is the price of anarchy は the violence を、 by ～ order までは remove を修飾していました。関係詞節は基本的には直前の名詞を先行詞に取りますが、場合によっては本問のようにそれより前の名詞を修飾することもあります。

本問の場合、先行詞が the society なのか the violence なのかは文脈判断によった。このようにその判断が「それぞれにかけて訳してみてどちらがより自然な訳になるのか」によらざるを得ないこともあるので注意しよう。

それから by の後に動名詞が続く場合、by は「手段」を表し、by doing～ で「～することによって」と訳します。あと the price が本問のように「代価、代償」という意味になることがあります。注意しましょう。

さて最後の難関は substituting 以下の構造でした。substitute は本来、

substitute A for B「ＢをＡで置き換える、Ｂの代わりにＡを用いる」

という構造で使われるものなのですが、本問ではＡにあたる部分が長すぎて後ろに回され

substitute for B A

という構造になっていたことに気付いたでしょうか。

本問も by substituting for it の直後に the peace and security という(Ｓ・Ｏ・Ｃといった役割を持たない)名詞があることに着目し、上記の語順変化を見抜くことができなければなりませんでした。このパターンは、もう何度かこの問題集で目にしてきているわけで、そろそろ自分で気が付くようにならないといけません。

もちろん substitute A for B という構文があることを、元々知識として知っていることも不可欠ではありましたが。

by substituting for it the peace and security
B　　A↑

[of which the price is law and order].
関・代　S　V　C

it は「暴力」を指しています。そうするとこの部分は「その代償が法と秩序である平和と安全を、それ[暴力]の代わりに用いることによって」が直訳となります。

この部分をわかりやすく言えば「平和と安全を手に入れるためには、法と秩序という代償が必要だが、そうして得られる平和と安全を暴力と置き換えることによって」ということ。

全体をそれではまず直訳してみると、このようになります。

「国家と政治の目標は、その代償が法と秩序である平和と安全を(暴力の)代わりに用いることによって、社会から無政府状態の代償である暴力を取り除くことである」

これをこなれた和訳に直すと以下のようになるでしょう。

「国家と政治の目標は、社会から無政府状態の代償である暴力を取り除き、その代わりに法と秩序を代償とする平和と安全をもたらすことである」。

②

この英文の全体構造は以下の通りです。

Success　in accomplishing this goal　is　the standard of judgment
Ⓢ↑　～を成し遂げる　目標　Ⓥ　C基準↑　判断↑

[by which the value of a political system has to be judged].
S↑　政治体制　V　判断される、測られる

そうするとこの部分は、「この目標をなし遂げることに成功する[なし遂げることができる]かが、(ある)政治体制の価値が測られるべき尺度[判断の基準]となる」となります。

Success の部分は、どうしても意訳しないと和訳になりません。「成功」を「成功する」「～することができる」と、動詞化して訳出します。このように(抽象的な)名詞は、できるだけ動詞化できる場合は動詞化、形容詞化できる場合は形容詞化して訳出した方がいい日本語になることが多いのですね。

最後に、上の全体訳をよりこなれた和訳に直すと以下のようになるでしょう。

「この目標をどの程度に達成することができるかが、政治体制の価値を測るべき尺度となるのだ」

【全訳】

「国家と政治の目標は、社会から無政府状態の代償である暴力を取り除き、その代わりに法と秩序を代償とする平和と安全をもたらすことである。この目標をどの程度に達成することができるかが、政治体制の価値を測るべき尺度となるのだ」

10. As status differences widen, instead of accepting each other as equals on the basis of our common humanity as we might in more equal settings, measuring each other's worth becomes more important.

（一橋大）

《語句》status:地位
widen:広がる、大きくなる
instead of ～ing:～するのではなく、～する代わりに
equal:対等な者
on the basis of A: Aに基づいて
common humanity:共通の人間性、共に人間であるということ
equal settings:対等な境遇
measure:測る、評価する

【解答＆解説】

この英文の主節は measuring 以下です。measuring (each other's worth) がS(主語)、becomes がV(動詞)、more important がC(補語) の第二文型(SVC)です。measuring よりも左側にある As ～ widen と instead ～ settings はそれぞれ副詞節、と副詞句になっています。

LESSON BOOK REVIEW Rule-5 5. を参照せよ。

As status differences widen,
S V
instead of accepting ～ settings,

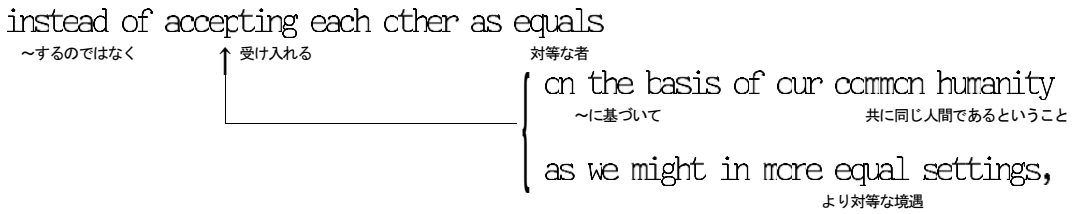
measuring each other's worth
Ⓢ 〈O〉

becomes more important.
Ⓥ C

本問の最大のポイントは、文中に現れた複数の as の正確な訳出です。LESSON BOOK REVIEW 86ページ (注2) をまず理解してから、これからの解説を読んでみてください。

ではまず As status differences widen の As ですが、節内の動詞が「広がる、大きくなる」という変化を表すものなので、ここは「～につれて」と訳せばいいでしょう。全体は「地位の差が広がるにつれて」となります。

次に instead of accepting ～ settings の部分。
最初の as は accept A as B という語法。これについては LESSON BOOK REVIEW Rule-26 8. にある通り、as は前後をイコールの関係で結ぶ(イコール)記号と判断すればいいでしょう。「A ＝ B とみなす」型です。２つ目の as は直後に(動詞の欠けた)不完全な文が続いています。ここは「～のように[な]」と訳せばいいでしょう。構造分析図も示してみます。



この部分の和訳はそうすると「より対等な境遇であったならそうするであろうような、共に同じ人間であるということに基づいて互いを対等な者として受け入れるのではなく」となります。
主節については和訳は問題なかったでしょう。「互いの価値を評価することがより重要となる」となります。

【全訳】

「地位の差が広がるにつれて、より対等な境遇であったならそうするであろうような、共に同じ人間であるということに基づいて互いを対等な者として受け入れるのではなく、互いの価値を評価することがより重要となる」

「the+比較級 S＋V～, the+比較級 S＋V…:～すればするほど、それだけいっそう…」の構文における注意点。

この構文については LESSON BOOK REVIEW Rule-54 でも紹介しているのですが、ここで付加情報も含め、まとめて整理してみましょう。

① 「The+比較級 S＋V～」の「V」の部分が、be動詞や become の場合、「V」が省略されることが多い。

(ex) The older we grows, the weaker our memory.

上例の後半部は the+比較級 S という構造でVがありません。このような場合、be動詞もしくは become がSの後に省略されていることを見抜かなければなりません。この英文では become を memory の後ろに補ってみるといいでしょう。

⇒ The older we grows, the weaker our memory becomes.
年をとればとるほど記憶力は弱くなる

② 「The+比較級 S＋V～」の部分が３つあった場合には、and のない方が前後半の切れ目とみなす。

たとえば、

The+比較級 S+V～ and the+比較級 S+V～, the+比較級 S+V…

という構造の英文があったら、

The+比較級 S+V～ and the+比較級 S+V～, // the+比較級 S+V…

つまり、「～すればするほど、そして～すればするほど、それだけいっそう…」と訳せばいいでしょう。

The+比較級 S+V～, the+比較級 S+V… and the+比較級 S+V…

という構造の英文があったら、

The+比較級 S+V～,// the+比較級 S+V… and the+比較級 S+V…

つまり、「～すればするほど、それだけいっそう…でありまた(それだけいっそう)…だ」と訳せばいいでしょう。

練習問題をやってみましょう。

The more clearly you set your goal , the more opportunities to be happy you have, and the less you are at the mercy of fate.

《語句》opportunity (to do[原形]～):(～する)機会
at the mercy of A:Aのなすがままになって、左右されて
fate:運命

上の英文の場合、and のない方が前後半の切れ目ということですから、goal と the more opportunities の間がそれ(前後半の切れ目)と考えるわけです。そうすると訳はこんな感じになります。

「目標設定を明確にすればするほど、それだけいっそう幸せになる機会も多くなるし、運命に左右されることも少なくなる」

③訳がよくわからなくなったら、元の形に戻してみるといい。

(ex) The more information you get, the more likely you are to pass the exam.

上の英文の場合、前半部の the more information は元々、get の目的語です。そこで

⇒ You get much information. 沢山の情報を手に入れる

と、元の位置に戻してあげるとよりわかりやすくなります。

上記のような、元々「形容詞+名詞」の形で文中で使われていた形容詞が比較表現で使われた場合、その「形容詞+名詞」の部分はバラバラにせずにワンセットで移動させるというルールがある。だから the more と information がセットで文頭に飛び出したのだ。

後半部の the more likely は元々、 be likely to do[原形]～という構文の一部でした。そこで

⇒ You are likely to pass the exam.
試験に合格する可能性が高い

と、元の位置に戻してあげるとよりわかりやすくなります。そうすると先程の英文は「沢山の情報を手に入れれば入れるほど、それだけいっそう試験に合格する可能性が高くなる」と訳せるわけです。